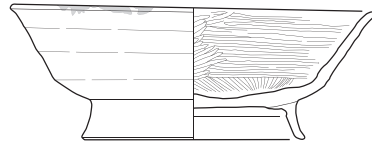
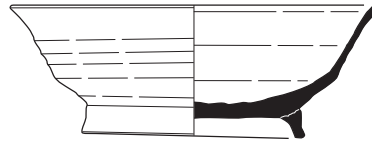


茨城県石岡市

宮部遺跡 (第8地点)

—店舗建設に伴う発掘調査—



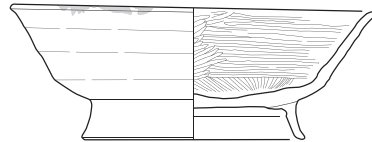
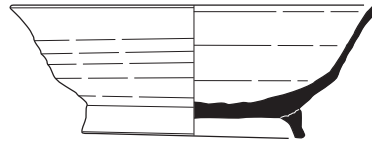
2014

濱 総 業 株 式 会 社
石 岡 市 教 育 委 員 会
有 限 会 社 毛 野 考 古 学 研 究 所

茨城県石岡市

みやべ いせき
宮部遺跡 (第8地点)

—店舗建設に伴う発掘調査—







2014

濱 総 業 株 式 会 社
石 岡 市 教 育 委 員 会
有 限 会 社 毛 野 考 古 学 研 究 所

例 言

1. 本書は、茨城県石岡市若松1丁目8115-1番地に所在する宮部遺跡（第8地点）の発掘調査報告書である。
2. 調査は、アルファクラブ株式会社の店舗新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
3. 調査は、濱総業株式会社からの委託を受けて、石岡市教育委員会の指導のもと（有）毛野考古学研究所茨城支所が実施した。
4. 調査期間は、平成25年12月9日～平成26年1月14日、整理期間は、平成26年1月15日～平成26年3月31日で、調査面積は175㎡である。
5. 調査体制、調査・整理担当者、執筆分担は以下の通りである。
調査指導 谷仲俊雄（石岡市教育委員会）
調査 土生朗治 賀来孝代 小出琢磨（（有）毛野考古学研究所）
整理 谷仲俊雄（I章）、土生朗治（II～IV章）、賀来孝代（図版作成・編集）
6. 調査で得られた資料は石岡市教育委員会で保管している。
7. 調査及び報告書作成に際し、下記の諸氏・機関からご指導・ご協力を賜りました。記して感謝を申し上げます。
大関武 瓦吹堅 小杉山大輔 佐々木義則 本田信之 高橋清文 鶴見貞夫 茨城県教育委員会
大末建設株式会社 ㈱カワヒロ産業 有限会社内外
8. 本書の作成にあたっては、鬼山由子、仙波菜津美、高橋真弓、根本正子、石山亜希子、成田恵美の協力を得た。
9. 発掘調査参加者は以下の通りである。
池田里枝、井場隆之、大山年明、貝塚奈美、河野紅仁子、久保田真人、小角みや子、鈴木浩、長谷川和男

凡 例

- 1 本書で使用した地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図、石岡市発行2千5百分の1都市計画図である。
- 2 出土遺物の注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。
S I・・・竪穴建物跡 SK・・・土坑 P・・・ピット K・・・攪乱
- 3 実測図で使用した縮尺は以下の通りである。
竪穴建物跡・・・1/60 土坑・・・1/60 ピット・・・1/60、1/100
- 4 遺構一覧表・遺物観察表の表記は（ ）内数値が計測推定値を、[]内数値は残存値を表す。
- 5 遺構・遺物図中のスクリーントーンは以下の通りである。
カマド粘土の範囲 
須恵器断面  灰釉陶器断面  緑釉陶器断面 

目 次

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
第Ⅲ章 調査の方法と基本層序	3
第1節 調査の方法	3
第2節 基本層序	3
第3節 試掘調査の概要	4
第Ⅳ章 遺構と遺物	6
第1節 竪穴建物跡	6
第2節 土坑	14
第3節 遺構外遺物	14
第Ⅴ章 総括	19

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡地図	2
第2図 基本土層図	4
第3図 宮部遺跡第8地点試掘トレンチ・調査区位置図	4
第4図 調査区全体図	5
第5図 4号竪穴建物跡	7
第6図 4号竪穴建物跡出土遺物(1)	8
第7図 4号竪穴建物跡出土遺物(2)	9
第8図 5号竪穴建物跡	12
第9図 5号竪穴建物跡出土遺物	12
第10図 6号竪穴建物跡	15
第11図 6号竪穴建物跡出土遺物	15
第12図 土坑	16
第13図 土坑・遺構外出土遺物	17

表 目 次

表1 4号竪穴建物跡出土遺物観察表	10
表2 5号竪穴建物跡出土遺物観察表	13
表3 6号竪穴建物跡出土遺物観察表	15
表4 土坑出土遺物観察表	18
表5 遺構外出土遺物観察表	18

写 真 図 版 目 次

PL. 1 全景写真	
PL. 2 4・5号竪穴建物跡	
PL. 3 5・6号竪穴建物跡、土坑	
PL. 4 土坑、4号竪穴建物跡出土遺物	
PL. 5 竪穴建物跡・土坑出土遺物	
PL. 6 竪穴建物跡・土坑・その他出土遺物	

第 I 章 調査に至る経緯と調査の経過

第 1 節 調査に至る経過

平成 25 年 4 月 22 日、濱総業株式会社より「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」照会文書が石岡市教育委員会に提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地には該当しなかったが宮部遺跡の周辺地にあたり、市教育委員会が現地踏査を行ったところ遺跡の存在する可能性が高いことから、試掘調査が必要である旨を平成 25 年 5 月 1 日付で回答した。

試掘調査は平成 25 年 5 月 14 日、7 月 2 日に実施した。その結果、開発区域の西側において奈良・平安時代の竪穴建物跡や土坑を確認した。なお、5 月 14 日の試掘調査結果を受け、5 月 20 日付で「埋蔵文化財包蔵地調査カードの更新について」を茨城県教育委員会に提出し、遺跡の確認された開発区域西側を宮部遺跡の範囲とした。

濱総業株式会社より土地を購入し店舗建設予定のアルファクラブ株式会社が平成 25 年 10 月 11 日付で茨城県教育委員会に「埋蔵文化財発掘の届出」を提出した。平成 25 年 10 月 28 日付で茨城県教育委員会から、遺構の検出された箇所のうち、損壊されるなど埋蔵文化財の保存に影響がある箇所については工事着手前に発掘調査を実施するように通知があった。

これらを受け、市教育委員会と濱総業株式会社、アルファクラブ株式会社は協議を行い、記録保存のための発掘調査を実施すること、調査費用については濱総業株式会社が負担することで合意した。そこで、「埋蔵文化財発掘調査における民間発掘調査組織導入基準」に基づき選定手続きを行い、埋蔵文化財の保存に影響がある箇所（約 175㎡）について、有限会社 毛野考古学研究所 茨城支所に委託し発掘調査を実施することとなった。

第 2 節 調査の経過

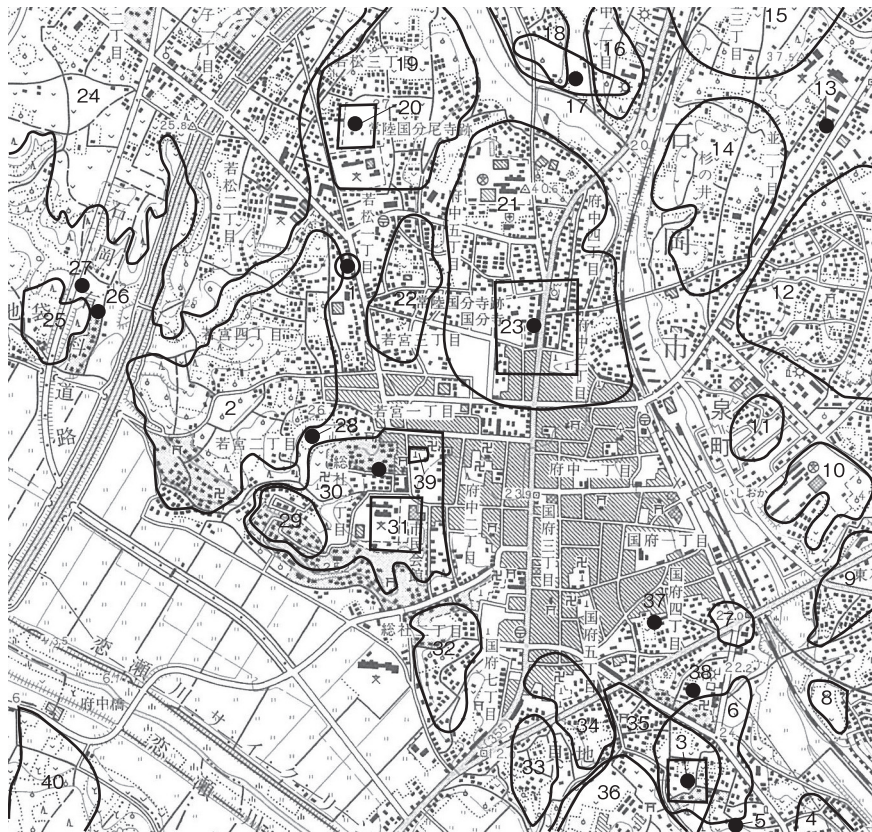
平成 25 年 12 月 9 日 宮部遺跡の調査対象地区に重機による表土除去作業及び遺構確認作業開始する。竪穴建物跡 3 軒、土坑 6 基、及び攪乱穴を確認する。12 月 10 日午前中雨天のため、午後から 2 軒の竪穴建物跡と 3 基の土坑の掘り込み作業を開始する。11 日～12 日にかけて竪穴建物跡の掘り込みを行い、14 日に遺物出土状況の図面を作成する。16 日には 4 号竪穴建物跡のカマドを調査し、竪穴建物跡床下の掘り方調査を行う。23 日には 6 号竪穴建物跡の掘り込み作業を行い、28 日には残った土坑の掘り込みを行う。平成 26 年 1 月 13 日には人力によりテストピットを調査区内に掘り基本土層を記録する。図面・出土遺物の確認をしてすべての現地調査を終了する。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

石岡市は茨城県の中央部、筑波山と霞ヶ浦に挟まれた地域にある。市域の北西部は筑波山東麓の旧八郷町地区、南東部は市街地化の著しいJR石岡駅を中心とする旧石岡市地区である。八郷地区は、標高877mの筑波山を主峰とするつば山塊に囲まれた盆地地形で、段丘と恋瀬川が形成した沖積低地からなる。沖積低地は恋瀬川とその支流に沿って樹枝状に広がり、全体に広く水田になっている。八郷盆地の出口にある竜神山や盆地中央部に横たわる富士山は、筑波山地をつくるものと同様の古期の岩石からなっている。旧石岡地区は石岡台地と呼ばれる洪積世台地からなり、基盤となる地質は、古東京湾に堆積した浅海成堆積物の泥質層、砂層、砂質シルトや礫砂層からなる。さらにその上層ではシルト～粘質土層からなる常総粘土層、その上に関東ローム層が重なってできている。

当遺跡の位置する石岡台地は、北西から南東方向に延びる恋瀬川と山王川に挟まれた標高約20～25mの比



1. 宮部遺跡（第8地点）
2. 宮部遺跡
3. 茨城廃寺跡
4. 税所屋敷遺跡
5. 茨城塚群
6. 小目代遺跡
7. 守横町遺跡
8. 兵崎遺跡
9. 兵崎箕輪遺跡
10. 山王遺跡
11. 白久台遺跡
12. 東ノ辻遺跡
13. 万能塚
14. 杉ノ井遺跡
15. 木間塚遺跡
16. 木間長者屋敷遺跡
17. 木間塚古墳群
18. 北ノ谷遺跡
19. 尼寺ヶ原遺跡
20. 常陸国分尼寺跡
21. 国分遺跡
22. 一本杉遺跡
23. 常陸国分寺跡
24. 鹿の子遺跡
25. 餓鬼塚遺跡
26. 池袋防空壕跡
27. 池袋土塁
28. 石井土塁
29. 古城遺跡
30. 府中城跡
31. 常陸国衙跡
32. 幸町遺跡
33. 通安寺遺跡
34. 富田遺跡
35. 外城遺跡
36. 茨城郡衙跡
37. 富田東塚
38. 愛宕神社古墳
39. 代官屋敷遺跡
40. 石岡別所遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺遺跡地図

較的緩やかな傾斜の台地地形で、南東端部では恋瀬川や山王川が霞ヶ浦に注ぎ霞ヶ浦入に突出した地形となっている。

宮部遺跡は恋瀬川に面する台地上にあり、常磐線石岡駅からは西北西方向の約 1.5km の市街地にある。宮部遺跡の範囲は若宮 2～3 丁目を中心にして北東方向の若松 1 丁目にかけて、長さ 1 km、幅 500m の広大な面積に広がる遺跡として登録されており、今回試掘調査において遺構が確認され、本調査を実施することになった第 8 地点は宮部遺跡の範囲の北東端部若松 1 丁目内にある。

第 2 節 歴史的環境

宮部遺跡周辺は、縄文時代から中近世にかけての遺跡が数多く存在している。なかでも奈良・平安時代の常陸国の重要な遺跡が点在していることから、本調査と同時代を絞って奈良・平安時代を中心に概観する。本遺跡の南方約 0.8km には常陸国の国衙跡がある。これまでの調査で、7 世紀末から 8 世紀初めの瓦葺き建物が確認され、国衙以前の茨城郡衙関連の遺構の可能性が考えられている。また、国分寺創設期の礎石・瓦葺建物も確認されており常陸国衙関連の国庁や国司館、あるいは曹司等の可能性が考えられている。本跡から北方に目を向けると約 0.5km 地点には国分尼寺跡がある。国分尼寺は国分寺とともに 8 世紀後半に創建され、16 世紀末に佐竹氏と大掾氏との争いの中で焼亡している。国分尼寺の周辺には尼寺ヶ原遺跡があり、さらに北北西約 0.3km には鹿の子遺跡があり、長大で複数のカマドを持つ竪穴建物跡や鍛冶工房跡、砥石等が多数確認され、常陸国の武器を中心とした鉄製品製作にかかわる国営工房跡とされている。国分寺は東方 0.6km にあり、国分寺南西には大規模な国分遺跡があるなど、周囲には常陸国の重要な施設が配置され、それらと関連する竪穴建物跡が多数確認されている遺跡が立地しており、まだ確認されていないその他の役所とともに都市域を形成していたものと見られる。

第三章 調査の方法と基本層序

第 1 節 調査の方法

調査区は石岡市教育委員会が行った試掘の結果を基に設定された。表土除去は重機を使用して遺構確認面まで掘り下げた。その後人力作業により遺構確認を行い、竪穴建物跡 3 棟、土坑 6 基を確認し、遺構の掘り下げを行った。遺構の測量は、世界測地系平面直角座標第 IX 系上の公共座標に基づいて行った。公共座標上で、調査範囲外側の北西角の X 軸、Y 軸を起点として、南方向と東方向に 10m おきにグリッドラインを設定した。

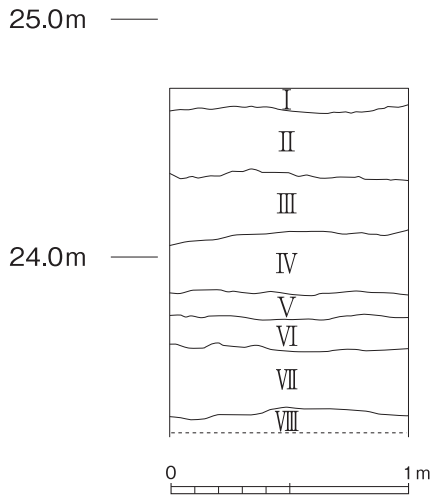
調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は 1 / 20 縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、1 / 10、1 / 20 を使用した。遺跡全測図は 1 / 200 で作成した。

写真撮影は、白黒 35mm 判、リバーサル 35mm 判、デジタルカメラを使用し、調査の各段階に随時行った。

第 2 節 基本層序

調査区の基本堆積土層は、15 号土坑の北壁を利用して掘削・記録した。

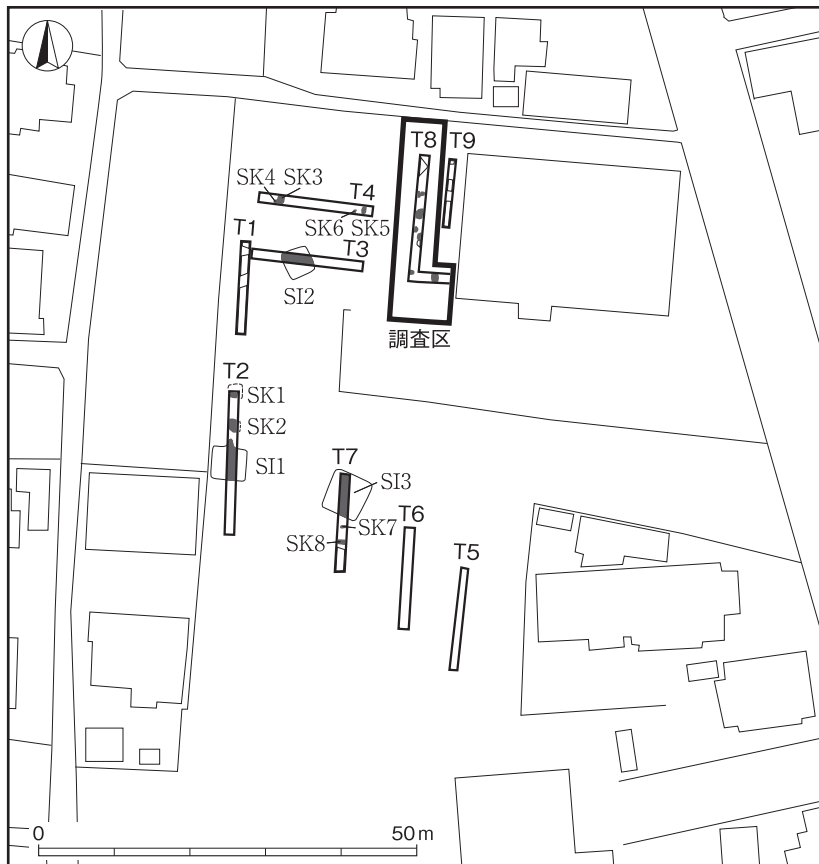


第2図 基本土層図

I層はにぶい黄褐色のハードローム層で、約10cmの厚さがあり、ソフトロームの貫入が目立つ。II層は厚さが約30cmで、僅かにI層よりも明るくにぶい黄褐色である。III層は約30cmの厚さの目の詰まったハードローム層で、極少量の橙色粒を含んでいる。IV層はIII層に近似しており、IV層と4層の間に小礫が極少量含まれている。V層は、鹿沼パミスの中ブロックを極少量含んでいる。VI層は、IV層と類似している。VII層は褐色のやや暗く粘性があるローム層である。VIII層は、にぶい黄褐色でVII層よりもやや明るく粘性がある。奈良・平安時代の遺構の確認面はI層上面である。

第3節 試掘調査の概要

宮部遺跡第8地点については本調査前に石岡市による試掘調査が行われている。試掘調査では、2・3・7号トレンチから



第3図 宮部遺跡第8地点試掘トレンチ・調査区位置図

堅穴建物跡3軒、土坑は各トレンチあわせて15基が確認されている。その状況については第3図を参照願いたい。試掘調査で出土した遺物は、2号トレンチから土師器甕体部片、3号トレンチから内黒土師器坏片、4号トレンチから内外面黒色処理土師器坏片、7号トレンチから外面縄叩きの平瓦片等平安時代を主体とした遺物が出土している。本調査区となった8号トレンチについては、本編内に掲載している。



第4図 調査区全体図

第Ⅳ章 遺構と遺物

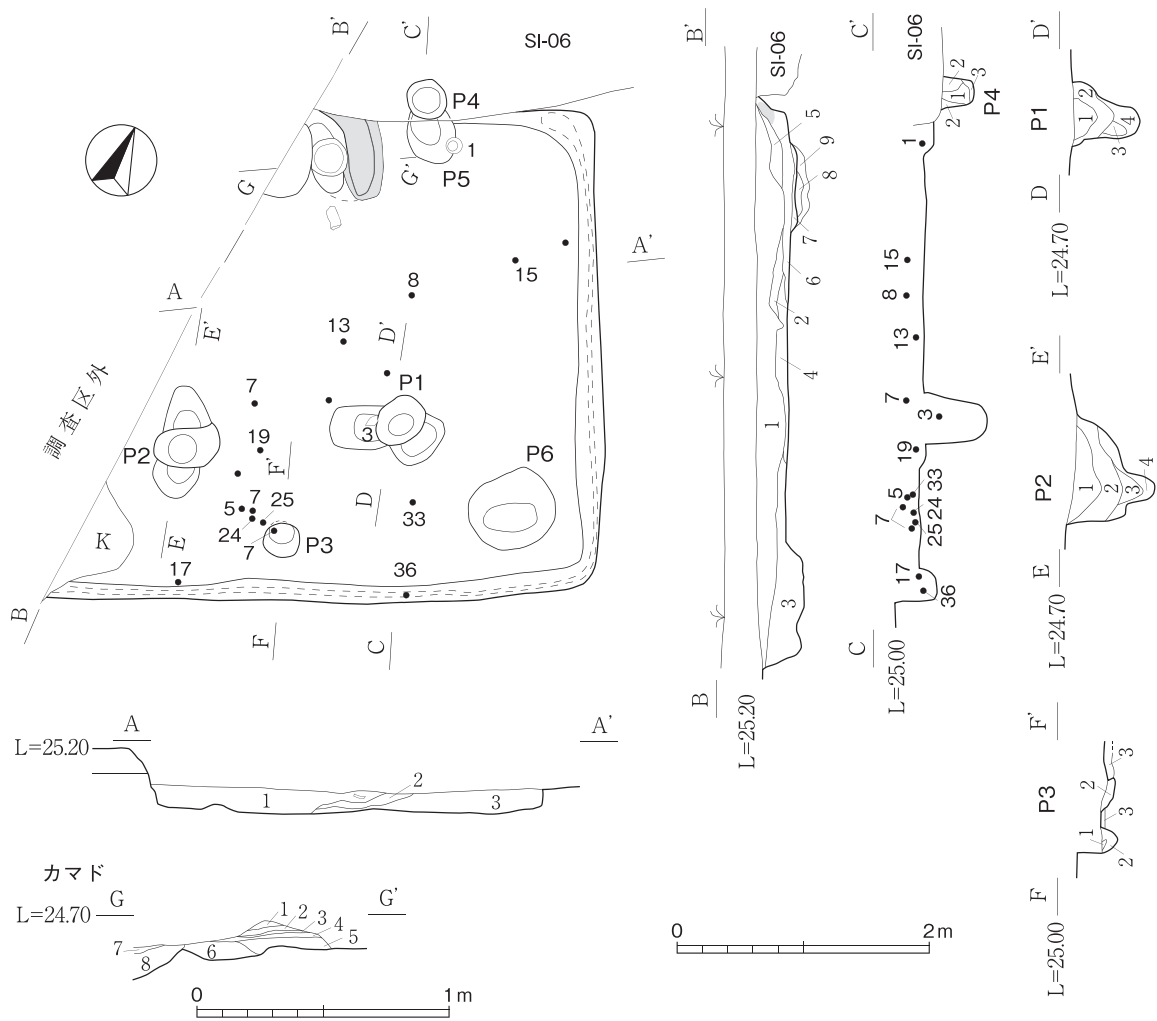
第1節 竪穴建物跡

竪穴建物跡は、全部で3軒確認されている。時期は、平安時代の9世紀代の竪穴建物跡である。

4号竪穴建物跡（第5図）

位置 調査区中央部北寄りにある。**規模と平面形** 南北方向約3.8m、東西方向4.40m以上の東西方向に長い長方形。**主軸方向** N-23°-W **壁** 壁は北隅部で最大約22cmの高さまで残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。**床** 床面はほぼ平坦で、P5、P6付近を除いて全体に硬化している。南西隅部が埋没途中攪乱を受けている。床面の周囲の壁溝は、竪穴内の覆土を除去し床面を精査したところ、確認幅が約10cm前後で確認された。その後の床下調査で、床面整地層を水平に約1～2cm削り下げた所、幅約20cm、深さ10cmの溝状の掘り方が明瞭に確認された。竪穴建物跡の掘り方は中心部が浅く壁や隅部に向かって深くなるように掘られている。壁溝掘り方と竪穴建物跡の掘り方は、切り合い関係で竪穴建物跡の掘りの方が古く壁溝は竪穴建物掘り方まで、荒掘りされ一度平らに埋められたあと掘削されている。**ピット** 主柱穴は、P1・P2・P4の3箇所確認されている。P1とP2は掘り方上半部が広く掘り広げられており、抜き取りが行われているものと思われる。P4は6号竪穴建物跡の床下掘り方層の下から確認されており、おそらく北側の主柱穴は、北壁を少し挟む位置にあり、壁柱穴となっていたものと思われる。P3は深さは浅いが、位置関係と掘り込みの形状・土層の堆積状況から見て出入り口ピットになるものと思われる。P5・P6は浅い凹み穴で、柱穴ではなく土器等の設置痕跡等何らかの利用痕跡ではないかと思われる。**カマド** 北壁に位置し、右袖の一部と見られる砂質粘土と暗褐色土の水平な互層堆積が残存している。右袖の残存部の内壁に被熱痕が見られず、火床部が袖の残存部内側から約20～30cm離れた所から始まっており、袖残存部と火床部の間を精査したところ、径22cm程の浅い凹み穴が確認された。おそらく、土師器甕等口縁部を下に倒立状態でカマド構築材として使用していた痕跡の可能性が考えられる。粘土と暗褐色土の互層堆積はカマド構築材を外側から補強したカマド袖部外面の造作物と見られる。**覆土** 暗褐色土を主体とした埋没土で、中層以下に上屋の焼失に係わると思われる焼土や炭化物粒を含む堆積土層が見られる。**遺物** 出土遺物は土器と土製品、炭化種子、鉄製品と鉄滓が出土している。土器は須恵器と土師器があり、一部床面上から出土しているものもあるが大多数は覆土から出土している。須恵器の器種は坏、高台付坏、蓋、盤、高坏がある。須恵器の胎土から見た生産地分類は1・2・3・4の坏が白雲母を含む筑波山南麓を中心とする新治産と呼ばれる製品群、5の坏と11の盤は石英の礫をやや多く含み、雲母を含まない新治産の製品に近いが雲母を含まない製品群で八郷近辺の窯跡が想定されている新治Bと呼ばれている製品、7はチャート礫と海綿骨針を微量に含む水戸市西部の丘陵地帯にある木葉下窯跡群産の須恵器と思われる。1～4の須恵器は器形から新治小野1号窯段階、7は木葉下の有台坏の最終段階頃の製品として、9世紀第3四半期頃のものと思われる。14の須恵器の蓋はかえりを持った8世紀前葉頃のものであり、細片で混入遺物と考えられる。

土師器はこの時期に一般的に見られる甕類とロクロ成形で内面黒色処理を施した坏、高台付坏、蓋、盤がある。土師器の食器類は須恵器の器形に近い製品で橙色に焼き上がる酸化焰焼成で、内面に黒色処理と丁寧なミガキを施している15～18の坏と高台付坏、20・22の蓋、23の盤がある。土師器の食器類の中には体部内面にミガキを施しただけで黒色処理をしていない19や21のような製品がある。土師器の甕はすべて口縁部を摘



4号竪穴建物跡

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小～大ブロック中量、炭化物少量、締まり有り
- 2 暗褐色 焼土粒少量、炭化物・炭化材片少量、締まり有り
- 3 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、僅かに軟らかい、粘性なし
- 4 暗褐色 ローム粒中量、ローム小～大ブロック中量、炭化物少量、締まり有り
- 5 暗褐色 におい暗褐色粘土小ブロック中量、焼土粒少量、締まり有り、粘性有り
- 6 におい暗褐色 におい暗褐色粘土小～大ブロック多量、焼土小ブロック少量、炭化物粒少量、締まり有り、粘性有り
- 7 黒褐色 炭化物粒主体、軟らかい
- 8 におい褐色 砂質のにおい褐色粘土小ブロック主体、炭化物粒少量、ローム中ブロック少量、軟らかい
- 9 におい褐色 砂質のにおい褐色粘土中量、ローム小ブロックなか量、軟らかい

4号竪穴建物跡 カマド

- 1 暗褐色 砂質粘土少量、締まり有り
- 2 におい褐色 砂質粘土層、締まり有り
- 3 暗褐色 暗褐色土の薄い堆積層、硬く締り有り
- 4 におい褐色 におい褐色粘土層、締り有り、粘性有り
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒中量、硬く締まり有り
- 6 暗褐色 におい暗褐色粘土小ブロック中量、焼土粒少量、締まり有り、粘性有り
- 7 黒色 炭化物粒を含む灰層、軟らかい
- 8 暗褐色 砂質土中量、焼土粒・炭化物粒多量、火床上の堆積層、軟らかい

4号竪穴建物跡 P1

- 1 暗褐色 ローム粒少量、ローム小～中ブロック多量、軟らかい
- 2 暗褐色 ローム粒中量、砂質粘土小～大ブロック少量、炭化物中量、やや軟らかい
- 3 褐色 ローム小・中ブロック主体、軟らかい、粘性なし
- 4 褐色 ローム小・中ブロック主体、やや締まり有り

4号竪穴建物跡 P2

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、やや軟らかい
- 2 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、やや軟らかい
- 3 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック多量、軟らかい
- 4 褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、締まり有り

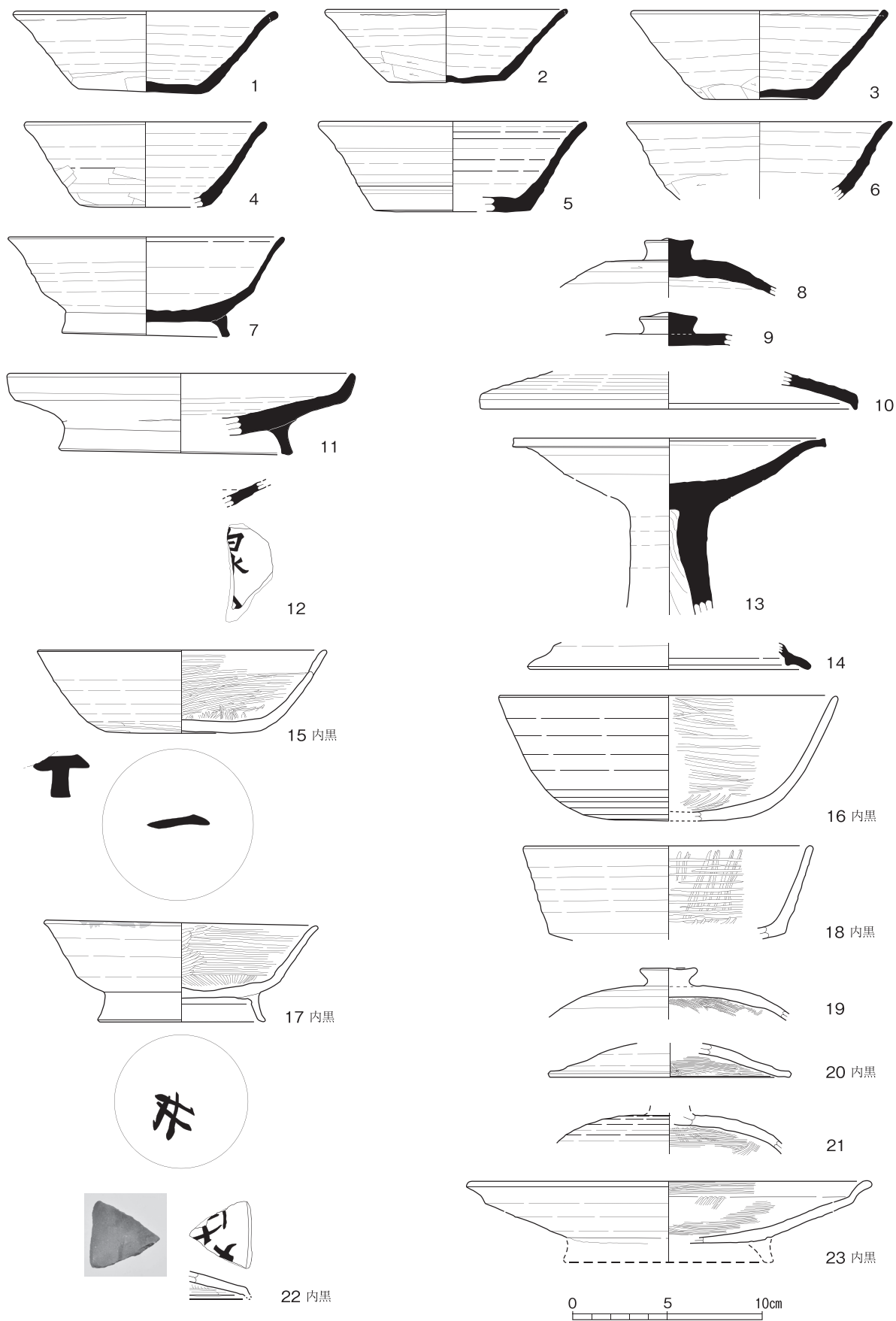
4号竪穴建物跡 P3・壁溝

- 1 黒褐色 ローム粒極少量、やや軟らかい
- 2 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック中量、締まり有り
- 3 暗褐色 ローム小・中ブロック主体、床の整地層で硬化している

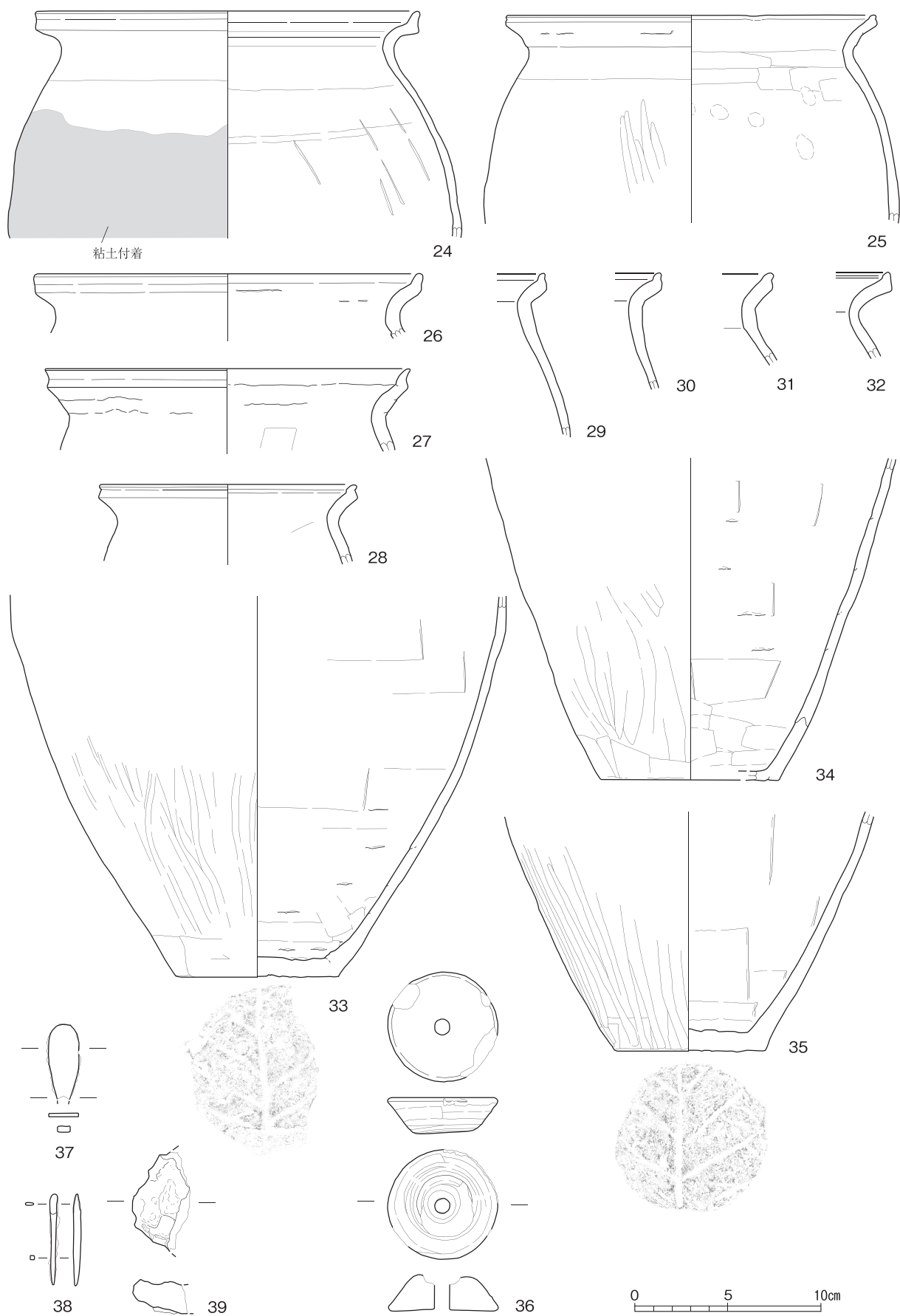
4号竪穴建物跡 P4

- 1 黒褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック少量、やや軟らかい
- 2 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、やや軟らかい
- 3 褐色 ローム中ブロック主体、締まり有り、粘性やや有り

第5図 4号竪穴建物跡



第6图 4号竖穴建物跡出土遺物(1)



第7图 4号竖穴建物跡出土遺物(2)

み上げ、体下半部にミガキ、底部に木葉痕を施したものである。土製品は、外面に黒色処理を施した紡錘車が出土している。金属製品では、不明鉄製品2点と鉄滓片が全部で115g出土している。

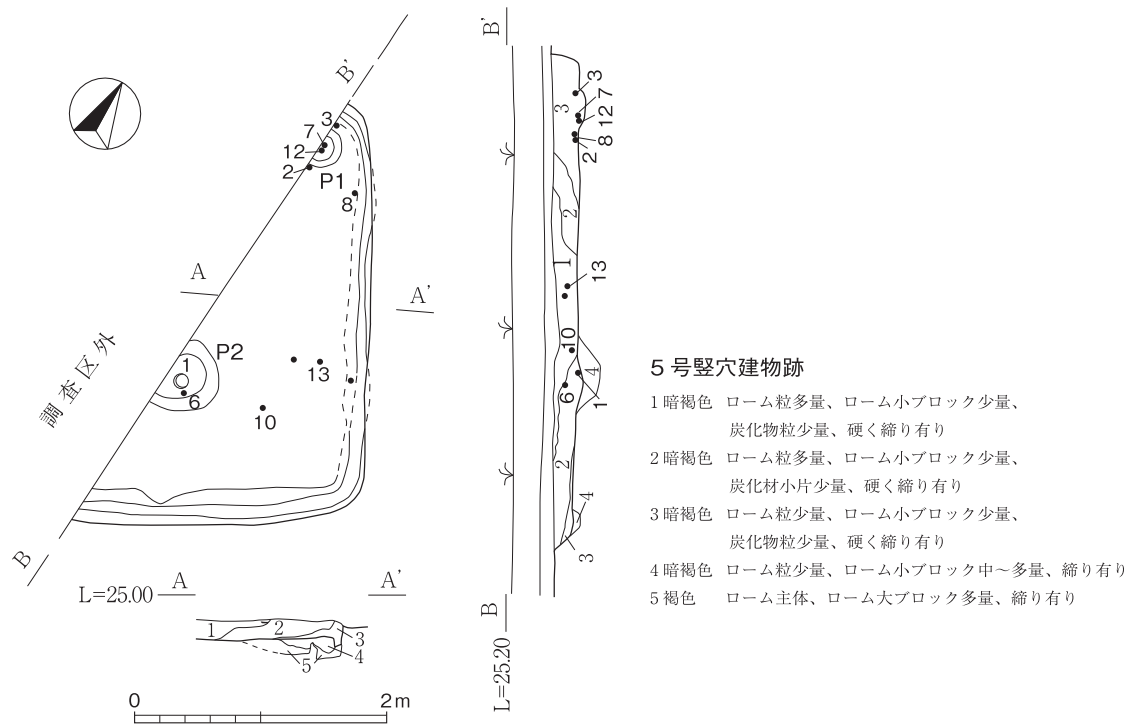
墨書文字は12の須恵器の盤体部外面に「泉□」?、15の土師器杯の体部外面に「T」、底部外面に「一」、8の須恵器蓋の天井部外面に不明瞭ながら「巴光」?等が見られる。

所見 南側支柱穴を屋内の床面に2本、北側の支柱穴を壁柱穴として上屋を造る構造の竪穴建物跡と見られる。覆土から出土している遺物が9世紀第3四半期頃のもので、竪穴建物の構築時期はそれ以前と見られる。

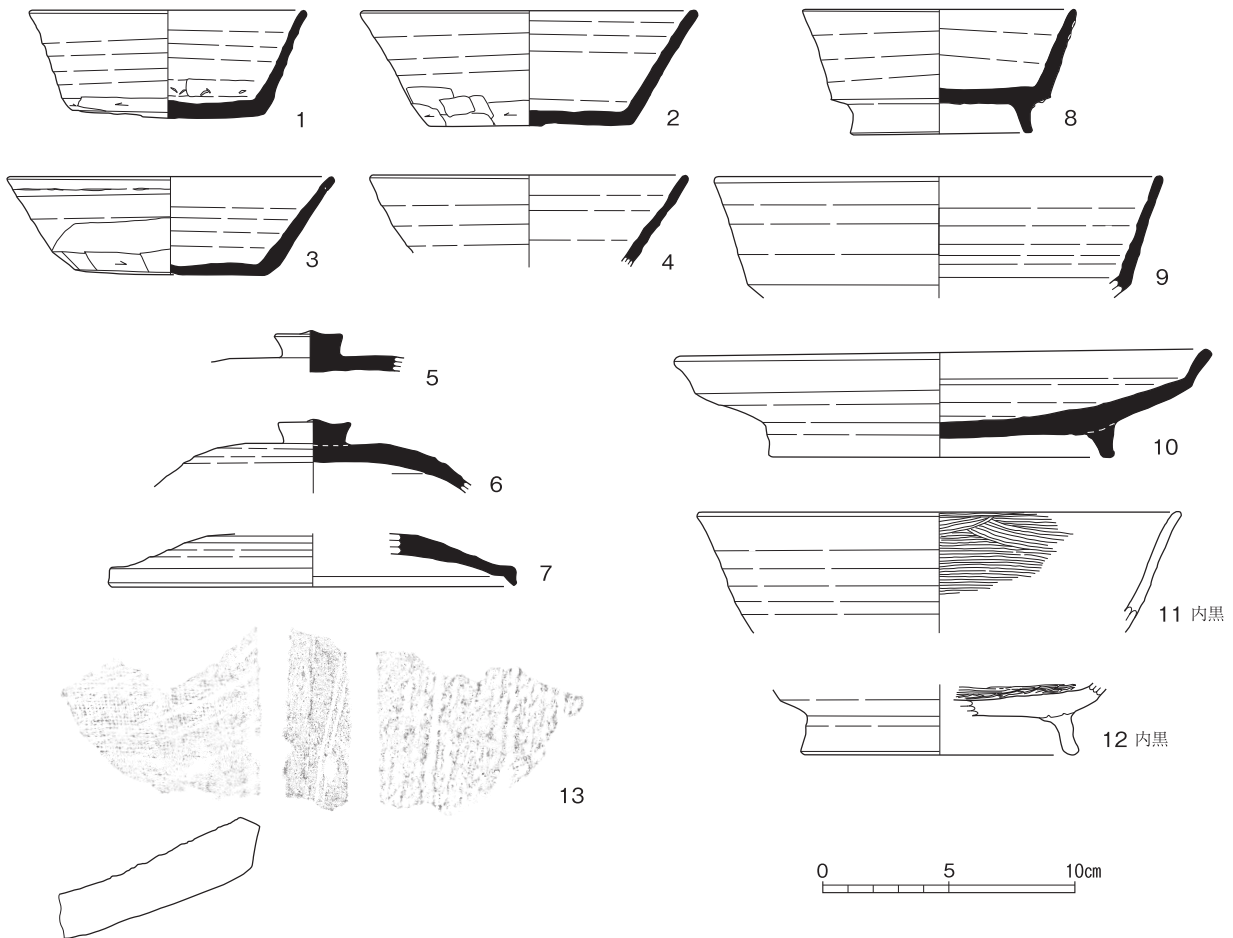
表1 4号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別器種	口径器高底径	特徴	胎土	焼成	色調	備考残存率	整理番号
1	須恵器杯	13.8 4.6 6.3	体部下端一周6回の手持ちヘラケズリ。底部回転ヘラ切り離し、後一方向のヘラケズリ。	長石、石英、雲母	やや不良	黒褐色	100%	1
2	須恵器杯	(12.8) 3.9 6.2	底部回転ヘラケズリ後、一方向ヘラケズリ。	長石、石英、雲母	不良	灰色	50%	10
3	須恵器杯	13.4 4.7 5.9	底部一方向ヘラケズリ。体部下端手持ちヘラケズリ。	長石、石英、雲母	やや不良	黒褐色	90%	2
4	須恵器杯	(12.8) 4.7 (7.0)	底部一方向ヘラケズリ。体部下端手持ちヘラケズリ。ロクロ右回転。	長石、石英、雲母	やや不良	黒褐色	40%	3
5	須恵器杯	(14.2) 4.8 8.2	底部一方向ヘラケズリ。体部外面ロクロナデ後回転ヘラナデ。ロクロ右回転。	石英礫	普通	灰色	30%	4
6	須恵器杯	(14.0) — —	口縁～体部破片。体部下端手持ちヘラケズリ。ロクロ右回転。口縁部重ね焼き痕。	石英細粒、白色粒	普通	灰色	破片	31
7	須恵器高台付杯	— — —	底部回転ヘラケズリ後、高台貼り付け。ロクロ右回転。	長石、石英、海綿骨針微量	良好	灰色	80%	14
8	須恵器蓋	— — —	天井部回転ヘラケズリ。ロクロ右回転。天井部外面墨書「巴光」?、内面朱付着。	長石、石英	不良	灰白色	60%	12
9	須恵器蓋	— — —	つまみ部片。	石英礫	普通	灰色	破片	33
10	須恵器蓋	(20.0) — —	内面降灰痕、口縁部重ね焼き痕。	長石・石英細粒少量	良好	灰色	破片	32
11	須恵器盤	(18.4) 3 (12.4)	底部回転ヘラケズリ、後高台貼り付け。	長石礫、石英	普通	明青灰色	30%	9
12	須恵器皿	— — —	体部破片。外面墨書「泉□」?。	長石、石英、雲母	普通	灰黄褐色	破片	41
13	須恵器高杯	— — —	体部ロクロ調整。ロクロ右回転。	長石礫、石英	良好	灰色	30%	13
14	須恵器蓋	— — —	かえり蓋口縁部片。	石英	不良	浅黄色	破片	21
15	土師器杯	15.9 4.6 9.0	体部ロクロ整形。体部下端回転ヘラケズリ、体部内面黒色処理・ミガキ。底部外面ヘラナデ。体部側面墨書「T」、底部外面墨書「一」。	長石、石英、角閃石・海綿骨針微量	普通	明褐色	70%	5
16	土師器杯	— — —	体部外面上半部ロクロナデ、下半部～底部ヘラケズリ。内面黒色処理・ミガキ。	石英	良好	にぶい橙色	20%	18
17	土師器高台付杯	14.2 5.2 8.7	体部ロクロ整形。底部外面回転ヘラケズリ、体部内面黒色処理・ミガキ。底部外面墨書「□」。口縁部油煙痕。	長石、石英、海綿骨針微量	良好	明橙色	90%	6

図版 番号	種別 器種	口径 器高 底径	特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備考 残存率	整理 番号
18	土師器 高台付坏	— — —	底部回転ヘラケズリ、後高台貼り付け。ロクロ右回転。	石英、雲母微粒	良好	にぶい橙色	破片	34
19	土師器 蓋	— — —	天井部回転ヘラケズリ。ロクロ右回転。内面ミガキ。	長石、石英	良好	橙色	40%	11
20	土師器 蓋	(12.8) — —	天井部回転ヘラケズリ、内面黒色処理・ミガキ。	長石、石英、 海綿骨針微量	良好	明橙色	30%	16
21	土師器 蓋	— — —	天井部回転ヘラケズリ。ロクロ右回転。内面ミガキ。	長石、石英、 海綿骨針	良好	にぶい褐色	20%	17
22	土師器 蓋	— — —	口縁部破片。内面黒色処理、ミガキ。天井部外面墨書「□□」。	石英、海綿骨針	良好	にぶい褐色	破片	19
23	土師器 盤	— — —	内面黒色処理・ミガキ。	石英、海綿骨針	良好	にぶい橙色	20%	20
24	土師器 甕	(20.7) — —	口縁部破片。口縁部ヨコナデ。外面肩部粘土付着。内面ヘラナデ。	石英、雲母	良好	橙色	30%	22
25	土師器 甕	(20.0) — —	口縁部破片。口縁部ヨコナデ。体部外面縦方向のミガキ、粘土付着。内面指頭痕。	長石、石英多量、 雲母	良好	にぶい褐色	破片	23
26	土師器 甕	(21.0) — —	口縁部破片。口縁部ヨコナデ。	長石、石英、雲母	良好	にぶい橙色	破片	24
27	土師器 甕	(20.0) — —	口縁部破片。口縁部ヨコナデ。	長石、石英、雲母	良好	橙色	15%	25
28	土師器 甕	(14.0) — —	口縁部破片。口縁部ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面摩耗	長石、石英、 雲母微粒	やや不良	橙色	破片	26
29	土師器 甕	— — —	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	長石、石英、雲母	普通	橙色	15%	38
30	土師器 甕	— — —	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	長石、石英、雲母	普通	橙色	破片	40
31	土師器 甕	— — —	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	長石、石英、白色粒	普通	明赤褐色	破片	37
32	土師器 甕	— — —	口縁部片。口縁部内外面ヨコナデ。	長石、石英、雲母	普通	にぶい褐色	破片	39
33	土師器 甕	— — (8.7)	体下半部ヘラミガキ、内面ヘラナデ。底部外面木葉痕。	石英、白色粒、雲母	普通	にぶい黄褐色	15%	29
34	土師器 甕	— — (9.6)	体下半部ヘラミガキ、内面ヘラナデ。	石英、白色粒、雲母	普通	明赤褐色	15%	28
35	土師器 甕	— — 8.0	体下半部ヘラミガキ、内面ヘラナデ。底部外面木葉痕、内面指ナデ。	石英、白色粒、雲母	普通	橙色	15%	27
36	土製品 紡錘車	— — —	上端径 5.9、高 1.9、下端径 3.0、重量 57.4g、	石英・長石微粒	良好	黒褐色	90%	7
37	鉄製品 不明鉄製品	— — —	長さ〈4.0〉、幅 1.6、厚さ 0.2 (体部)・0.25 (基部)、重 7.7g					15
38	鉄製品 中子	— — —	長さ 4.9、幅 0.35、厚 0.25、重 1.76g					35
39	鉄滓 碗状滓	— — —	長さ〈6.3〉、幅〈4.6〉、厚 1.7、重 28.03g					36
40	炭化種子 桃	— — —	長さ 19.1、幅 12.4、厚さ 11.8、1.42g、PL6					8



第8図 5号竪穴建物跡



第9図 5号竪穴建物跡出土遺物

5号竪穴建物跡（第8図）

位置 調査区の中央部やや北寄りにある。**規模と平面形** 南北方向3.27m、東西方向2.30m以上 **主軸方向** N-34°-W **壁** 壁は北東壁側で最大約16cmの高さまで残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。**床** 床面はほぼ平坦で、全体に硬化している。**ピット** P1は北東隅にあり、深さ5cmの浅い窪み穴である。P2は、深さ25cmで、支柱穴だった可能性があるが、竪穴建物埋没直前には、深さ4cmまで掘って浅い窪み穴となっており、中から須恵器坏が倒立状態で出土している。**覆土** ローム粒を多量、ローム小ブロックを少量含んだ暗褐色土を主体としている。**遺物** P1の覆土から、7の須恵器蓋、12の土師器高台付坏が破片で出土している。P2の覆土から1の須恵器坏が出土している。2の須恵器坏、10の須恵器盤も倒立状態で床面上から、8の須恵器高台付坏は東壁際の床面上から、3の須恵器坏は北東隅の床面上から出土している。須恵器の生産地別分類は、1が木葉下産、2・3・10が新治産、6・8が新治B（八郷）産と見られる。遺物の時期は、9世紀第1四半期頃のものと考えられる。**所見** 出土遺物は床面上から完形に近いものが多く出土していることから、9世紀第1四半期頃に廃絶した竪穴建物跡と思われる。

表2 5号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別 器種	口径 器高 底径	特 徴	胎土	焼成	色調	備考 残存率	整理 番号
1	須恵器 坏	11.0 4.3 7.6	体部下端ヘラケズリ、底部回転ヘラ切り離し後一方向ヘラケズリ。	石英、白色粒	普通	灰色	85%	3
2	須恵器 坏	(26.8) — (12.8)	口縁部ヨコナデ、胴部外面縦方向のヘラケズリ。	長石・石英粒 ～礫主体	良好	灰褐色	100%	2
3	須恵器 坏	(11.8) 4.3 —	口縁部ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ。	石英	やや不良	灰白色	100%	1
4	須恵器 坏	(12.6) — —	口縁部片、外面に重ね焼き痕。	石英礫	やや不良	灰色	破片	15
5	須恵器 蓋	— — —	摘部片。	石英礫	普通	灰色	破片	16
6	須恵器 蓋	— — —	天井部回転ヘラケズリ。内面に高台付坏との重ね焼き痕、高台痕跡径8.6cm。内面降灰で逆位焼成。	石英礫	良好	灰色	80%	5
7	須恵器 蓋	— — —	内面に降灰袖付着。	石英礫	良好	灰色	30%	11
8	須恵器 高台付坏	10.9 5.0 7.3	体部外面自然袖付着、逆位焼成。	石英礫	良好	灰色	95%	4
9	須恵器 高台付坏	(17.8) — —	口縁部片。	石英礫	普通	灰色	破片	8
10	須恵器 盤	— — —	天井部回転ヘラケズリ。ロクロ右回転。	長石、石英	良好	灰色	30%	6
11	土師器 坏	— — —	口縁部片。内面黒色処理・ミガキ。	白色粒、雲母	普通	橙色	破片	14
12	土師器 高台付坏	— — —	底部片。内面黒色処理・ミガキ。	海綿骨針、 金雲母微粒	良好	にぶい 黄橙色	30%	9
13	瓦 平瓦	長 (7.0) 幅 (8.7) 厚 2.1	凹面布目、凸面縄叩き、側面取り2回	石英、雲母微粒少量	不良	灰白色	破片	7

6号竪穴建物跡（第10図）

位置 調査区の北西部にある。**規模と平面形** 南北方向2.55 m、東西方向2.53 m以上。南壁の立ち上がりは残っているが、西壁は調査区外にあり、北～東壁は攪乱によって壊されている。**重複関係** 4号竪穴建物跡のカマドを壊し、4号竪穴建物跡のP4の上部を本跡の床と掘り方が壊している。**主軸方向** N-7°-W **壁** 壁は北東壁側で最大約22cmの高さまで残存し、ほぼ垂直に立ち上がる。**床** 床面はほぼ平坦で硬化しているが、南西部から南壁際の硬化がやや弱い。**覆土** ローム小ブロックを全体に含んだ人為的な埋め戻し土の暗褐色土を主体としている。**遺物** 床面から出土した遺物はなく、覆土中の遺物も少ない。掲載した遺物は覆土中に混入したものと床下から出土しているもので、5の土師器甕と1の須恵器盤の破片の一部は床下から出土している。1の須恵器盤は高温焼成で金属成分が還元し黒色粒として器表面に湧出しているが、鉍物粒の含有は少なく精良・緻密な胎土である。猿投産ではないか（註1）との指摘を受けている。口縁端部内側に沈線を廻らしており、県内の窯資料では、7世紀末頃とされる栗山窯にも同様な特徴が見られる。2の須恵器蓋は新治産、3の蓋は木葉下産ではないかと見られる。5の土師器甕は8世紀後半、1の須恵器盤は8世紀の前葉前後、2・3の須恵器蓋は8世紀代のものと思われる。本跡は遺構の切り合い関係から9世紀の第3四半期以降の時期と考えられるので出土している遺物は、すべて遺構の構築される以前の時期のものとなる。

所見 4号竪穴建物跡よりも新しい、9世紀後葉以降の時期の竪穴建物跡である。覆土中から出土している遺物から見て、8世紀代の竪穴建物跡が付近にある可能性が考えられる。

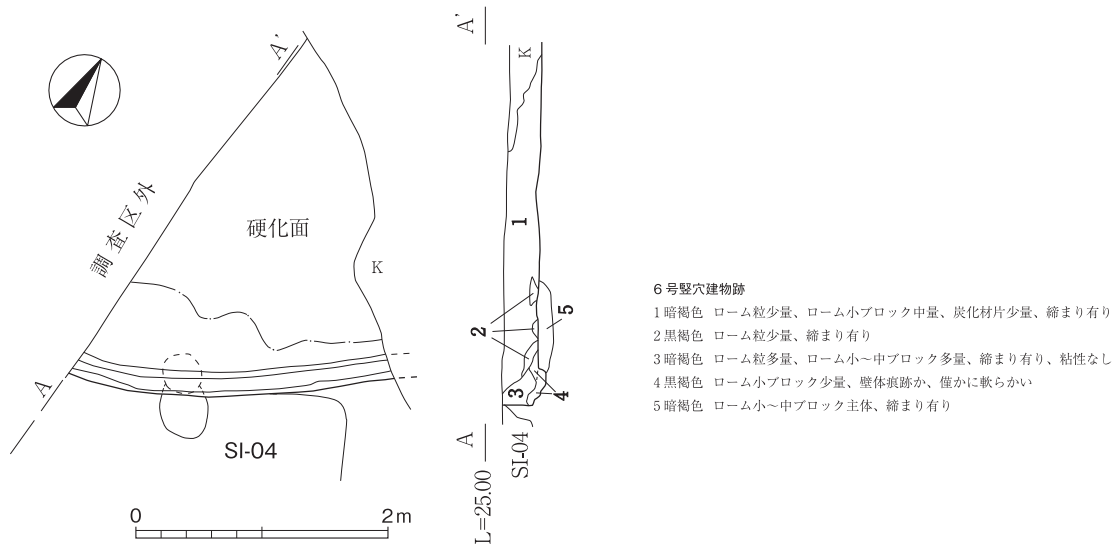
第2節 土 坑（第12図）

土坑は調査区内から6基確認されている。試掘調査8号トレンチ内からは、9～15号土坑が確認されているが、本調査では、14号土坑は4号竪穴建物跡の南東隅部分となり、9・12・13号土坑は木の根等の攪乱による穴と判断し、10・11・15号土坑と8号トレンチの周囲から新たに確認された16・18・19号土坑の計6基を土坑として報告を行っている。ただし、攪乱穴と考える試掘8号トレンチ内12号土坑から出土している内黒土師器片については、8号トレンチ内12号土坑出土として遺物を掲載している。12号土坑は14号土坑と接続しており、14号土坑が4号竪穴建物の南東隅部分に接していることを考えると4号竪穴建物跡からの流入遺物の可能性も考えられる。

10・16・18号土坑は柱穴ほどの径でやや小振りである。15号土坑は、長方形の平面形で埋め戻し堆積である。新しい時期の土坑と思われるが、そこに混入する遺物は細片で灰釉陶器片や須恵器硯片、中世の陶器片等がある。19号土坑はやや大形の方形土坑で、底面が平坦でやや硬化しており、覆土中から古代から中世にかけての遺物が出土している。それらの遺物の中には、緑釉陶器細片・瓦塔片が含まれるが、土師質土器の小皿も出土しており中世以降の時期のものである。

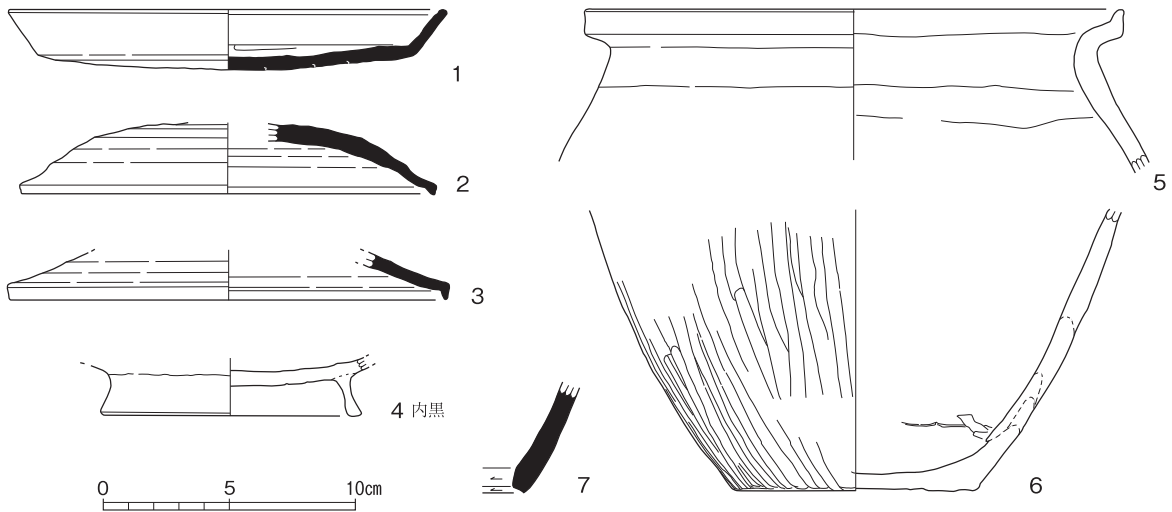
第3節 遺構外遺物

遺構外遺物としては、弥生土器小片が4点、瑠璃片が1点、格子叩きの須恵器甕口縁部片と須恵器胴部片が出土している。



- 6号竪穴建物跡
- 1 暗褐色 ローム粒少量、ローム小ブロック中量、炭化材片少量、締まり有り
 - 2 黒褐色 ローム粒少量、締まり有り
 - 3 暗褐色 ローム粒多量、ローム小~中ブロック多量、締まり有り、粘性なし
 - 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、壁体痕跡か、僅かに軟らかい
 - 5 暗褐色 ローム小~中ブロック主体、締まり有り

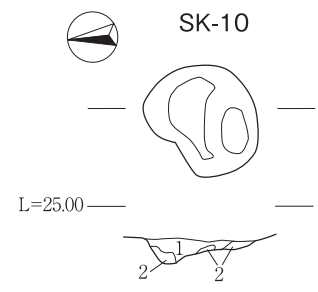
第10図 6号竪穴建物跡



第11図 6号竪穴建物跡出土遺物

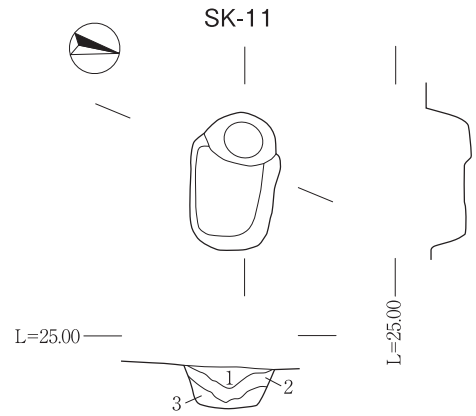
表3 6号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別 器種	口径 器高 底径	特 徴	胎土	焼成	色調	備考 残存率	整理 番号
1	須恵器 盤	17.4 24 13.5	無台の盤。口縁端部に沈線が廻る。内底面でいねいなヘラナデ。	黒色湧出物、緻密、石英粒少量	良好	灰褐色	50%	3
2	須恵器 蓋	(16.4) - -	天井部回転ヘラケズリ。	長石、白色粒	良好	灰色	20%	2
3	須恵器 蓋	(17.4) - -	口縁部片。	緻密、石英粒少量	良好	黄灰色	破片	6
4	土師器 高台付坏	- - -	高台部片。内面黒色処理、ミガキ。	長石、雲母	普通	にぶい黄褐色	15%	1
5	土師器 甕	(21.4) - -	口縁部ヨコナデ。体部内面ヘラナデ。	長石、石英、雲母	普通	橙色	破片	4
6	土師器 甕	- - (9.6)	体部下半ヘラミガキ。底部木葉痕。	長石、石英、雲母細粒	普通	明黄褐色	15%	5
7	須恵器 瓶	- - -	体部外面下端横方向のヘラケズリ。	長石、石英、雲母	普通	灰黄褐色	破片	7



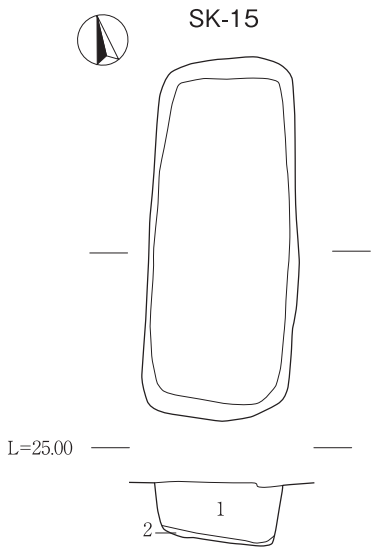
10号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、硬く締まり有り、粘性なし
- 2 黒褐色 ローム粒少量、ロームブロック少量、硬く締まり有り、粘性なし



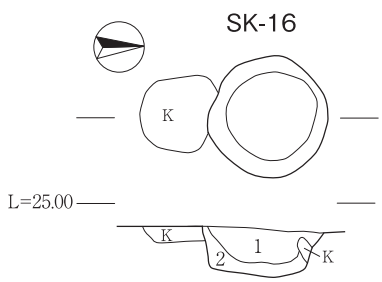
11号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小ブロック少量、締まりあり、粘性なし
- 2 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック中量、締まりあり、粘性なし
- 3 暗褐色 ローム粒少量、締まり有り、粘性なし



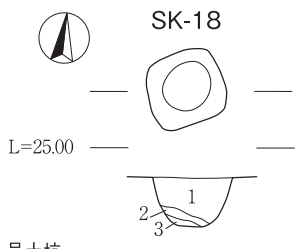
15号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒・ローム小～大ブロック多量、炭化物粒極少量、締まりあり
- 2 暗褐色 ローム粒少量、やや軟らかい



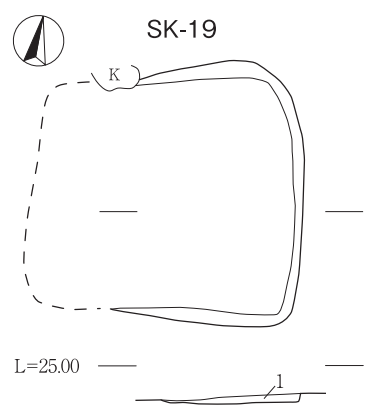
16号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小～中ブロック中量、締まりあり、粘性なし
- 2 暗褐色 ローム粒中量、ローム小～中ブロック多量、締まりあり、粘性なし



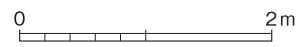
18号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒多量、ローム小ブロック多量、炭化物少量、締まりあり、粘性弱い
- 2 暗褐色 ローム粒少量、締まりあり、粘性弱い、1・3層と較べてやや暗い
- 3 暗褐色 ローム中ブロック多量、締まりあり、粘性弱い



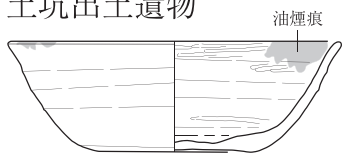
19号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒中量、ローム小～中ブロック少量、硬く締まりあり、粘性なし

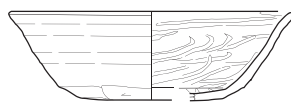


第12図 土坑

土坑出土遺物



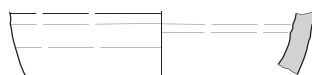
SK10-1 内黒



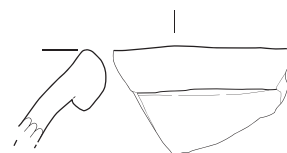
8号トレンチ (SK12)-1 内黒



SK15-1



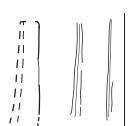
SK15-3



SK15-5



SK15-2



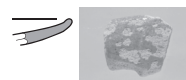
SK15-4



SK15-6



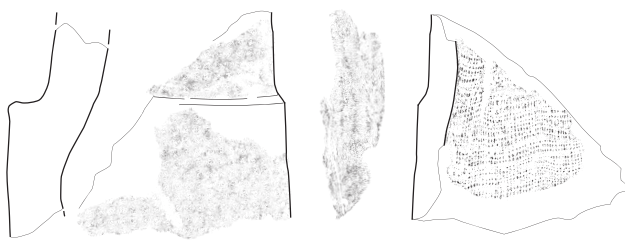
SK16-1



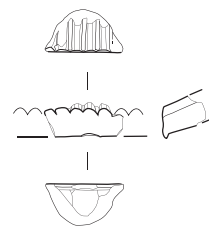
SK18-1



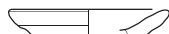
SK19-1



SK19-2

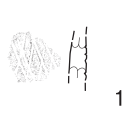


SK19-3



SK19-4

遺構外出土遺物



1



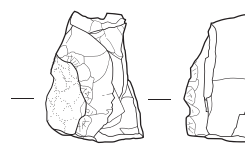
2



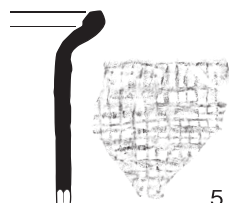
3



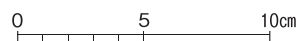
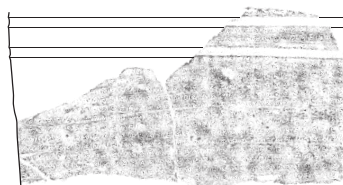
4



7



5



0

5

10cm

自然面

6

第13図 土坑・遺構外出土遺物

表4 土坑出土遺物観察表

図版番号	種別 器種	口径 器高 底径	特 徴	胎土	焼成	色調	備考 残存率	整理 番号
SK10 1	土師器 坏	(13.2) 4.4 6.0	体部内面黒色処理・ミガキ。	長石、石英、雲母	普通	橙色	50%	1
(SK12) 1	土師器 坏	(11.4) 3.5 6.0	体部下端ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。内面黒色処理・ミガキ。	石英、長石、雲母	普通	橙色	20%	1
SK15 1	灰釉陶器 碗	— — —	低い三日月高台。	黒色微粒少量、精良	良好	灰白色	破片	1
2	灰釉陶器 長頸瓶	— — —	体部片。	緻密、精良	良好	灰白色	破片	8
3	灰釉陶器 長頸瓶	— — —	肩部片。	石英粒微量	良好	灰白色	破片	9
4	須恵器 硯	— — —	体部片。縦方向にスリットになると思われる切り込みと沈線が2本入る。	石英粒	普通	灰色	破片	3
5	陶器 甕	— — —	口縁部片。	緻密、白色粒	良好	灰色	破片	2
6	常滑 壺	— — —	体部片。	緻密、長石	良好	暗褐色	破片	13
SK16 1	土師質土器 小皿	— — —	底部糸切り。	長石、雲母	普通	にぶい黄橙色	破片	12
SK18 1	緑釉陶器 皿	— — —	口縁部片。	明クリーム色の軟質な胎土	良好	明褐色	破片	10
SK19 1	緑釉陶器 皿	— — —	高台部破片。	微砂粒極少量、暗褐色	良好	濃緑色	破片	11
2	瓦 丸瓦	長(8.5) 幅(8.0) 厚2.2	凹面布目、凸面縄叩き。	石英、長石	良好	灰色	破片	5
3	瓦塔 屋蓋部	長(1.7) 幅(3.2) 厚1.2	垂木表現は低く弱い。	長石、石英、雲母微粒	良好	灰黄褐色	破片	6
4	土師質土器 小皿	(6.4) 1.5 (4.1)	底部回転糸切り。	長石、雲母	普通	橙色	15%	16

表5 遺構外出土遺物観察表

図版番号	種別 器種	口径 器高 底径	特 徴	胎土	焼成	色調	備考 残存率	整理 番号
1	弥生土器 壺	— — —	頸部片。斜格子沈線文。	石英、長石	良好	暗褐色	4号竪穴建物跡覆土	1
2	弥生土器 壺	— — —	胴部片。附加条縄文。	石英、長石、雲母微粒	普通	にぶい橙色	5号竪穴建物跡覆土	4
3	弥生土器 壺	— — —	胴部片。LR単節縄文。	石英、雲母	良好	暗褐色	4号竪穴建物跡覆土	5
4	弥生土器 壺	— — —	胴部片。LR単節縄文。	長石、石英	良好	にぶい褐色	5号竪穴建物跡覆土	6
5	須恵器 甕	— — —	体部外面真格子叩き、内面横方向のヘラナデ。	石英礫	普通	灰白色	3号トレンチ破片	2
6	須恵器 甕	— — —	体部内外面ヨコナデ。	長石、石英、雲母	普通	灰黄色	破片	3
7	瑪瑙	— — —	長5.0、幅3.8、厚2.7、重60.8g、側面に押打痕					7

第V章 総括

宮部遺跡から確認された遺構は、竪穴建物跡3軒と土坑6基である。出土遺物は、土器、陶器、土製品、鉄製品、炭化種子で、時期別では弥生時代の後期の土器細片4点が最古で、中世の土師質土器や陶器破片が新しい時期のものである。主体となるのは8世紀前葉から9世紀第3四半期にかけての古代の土器と土製品、金属製品である。

竪穴建物跡は3軒とも平安時代の9世紀頃のもので、5号竪穴建物跡は廃絶時に床上に残された遺物が9世紀第1四半期頃、4号竪穴建物跡の覆土中の遺物は9世紀第3四半期を示しているので各々それ以前の数十年間使用されていた竪穴建物跡と考えられる。6号竪穴建物跡は4号竪穴建物跡を壊しているので、9世紀第4四半期以降の時期の遺構となるが、覆土中や床下からは、8世紀代の遺物が出土している。4号竪穴建物跡は平面形が横長の長方形で四本の支柱穴のうち北側二本が壁柱穴になる構造のタイプである。

出土遺物は、竪穴建物跡3軒と土坑の中から出土している。竪穴建物跡はいずれも全体を調査していないにも係わらず、遺物の量と種類は多かった。平安時代の遺物が主体で、各時代の土師器、須恵器の組み合わせを知る上で貴重であった。過去の調査でも注目されていることであるが、時期別の須恵器の生産地の変遷や、9世紀代のロクロ成形で酸化焰焼成・内面黒色・ミガキ処理を施す土師器食器類の多様な器種構成等を再度意識させる資料である。土坑からは緑釉陶器や瓦塔片などたいへん珍しい遺物が中世の陶器や土師質土器の小皿とともに出土している。調査された平安時代の竪穴建物跡や中世の土坑以外でも、弥生時代後期、8世紀前葉といった遺物が調査区内で見られたことは、周辺に各時代の特徴のある遺物を伴う遺構が存在しているものと見られる。

註・参考文献

註1 佐々木義則氏による。

黒澤彰哉 2001 「常陸国衙跡出土屋瓦の検討」『常陸国衙跡』-石岡小学校温水プール建設事業に伴う調査- 石岡市教育委員会

佐々木義則 1999 「茨城県北半部における土師器碗の形式変遷」『婆良岐考古』第21号 婆良岐考古同人会

佐々木義則 2013 「木葉下窯跡群産須恵器有台坏・有台坏蓋・有台盤の編年」『婆良岐考古』第35号 婆良岐考古同人会

箕輪健一 2001 『常陸国衙跡』-石岡小学校温水プール建設事業に伴う調査- 石岡市教育委員会

山中敏史 2001 「常陸国衙の調査成果と検出遺構の検討-建物の構造・変遷と性格-」『常陸国衙跡』-石岡小学校温水プール建設事業に伴う調査- 石岡市教育委員会

写 真 图 版



完掘全景 南から



調査区北部竪穴建物跡全景 南東から



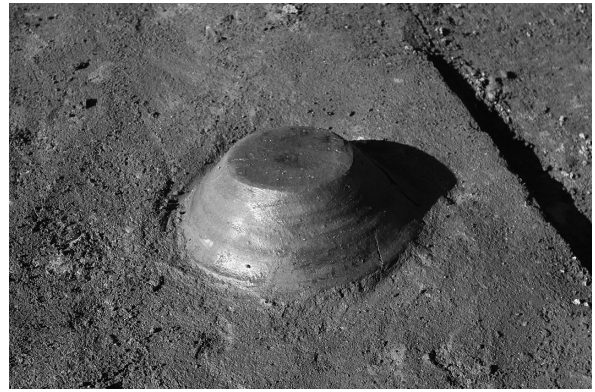
SI4 完掘状況 南東から



SI4 遺物出土状況 北東から



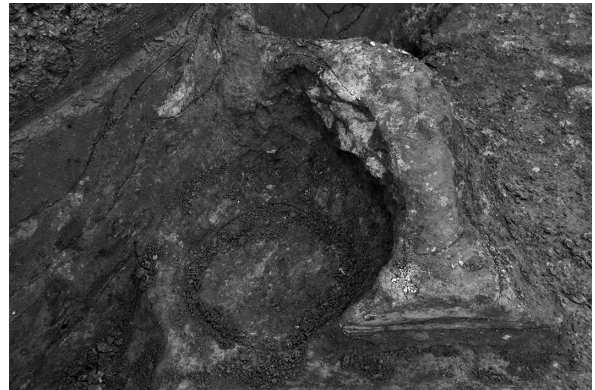
SI4 遺物出土状況 北西から



SI4 - 1 遺物出土状況 北東から



SI4 - 36 遺物出土状況 北から



SI4 カマド構築材抜取穴土層断面 南から



SI4 掘り方完掘状況 南東から



SI5 完掘状況 北東から



SI5 遺物出土状況 南から



SI5 - 10 遺物出土状況 東から



SI5P2 土層断面 北東から



SI5 壁溝掘り方完掘状況 南東から



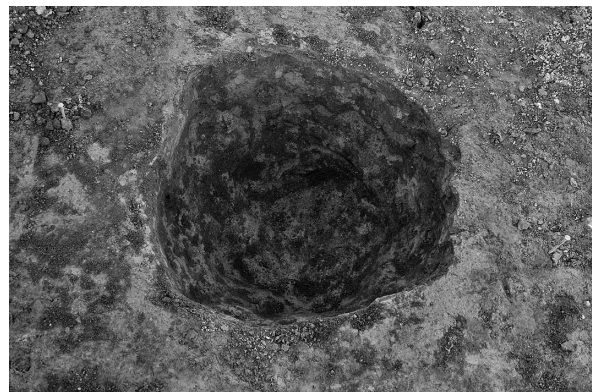
SI6 完掘状況 南東から



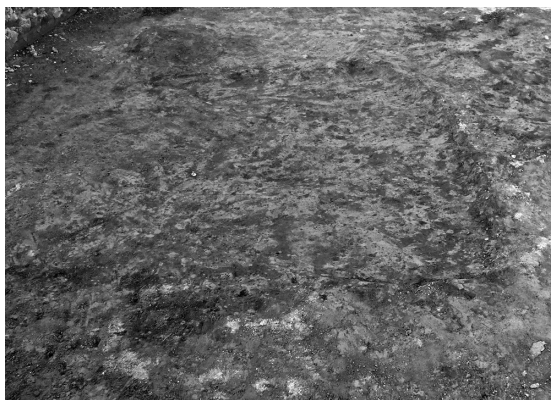
SK15 完掘状況 北から



SK16 完掘状況 北から



SK18 完掘状況 南から



SK19 完掘状況 南から



SI4 - 1



SI4 - 2



SI4 - 3



SI4 - 7



SI4 - 15



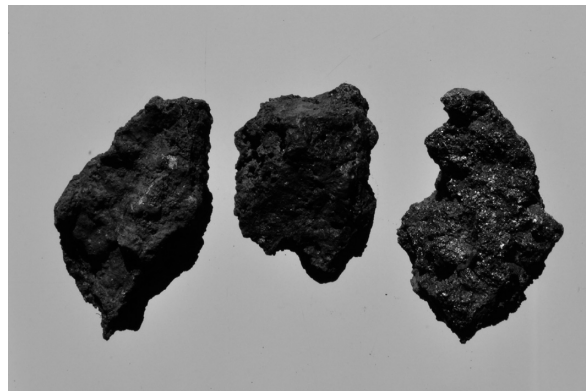
SI4 - 17



SI4 - 36



SI4 - 38 · 37



SI4 - 39 · 41 · 42 鉄滓



SI5 - 1



SI5 - 2



SI5 - 3



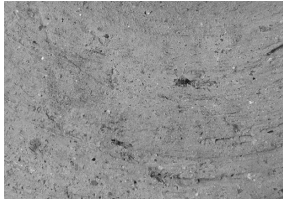
SI5 - 8



SI6 - 1



SK10 - 1



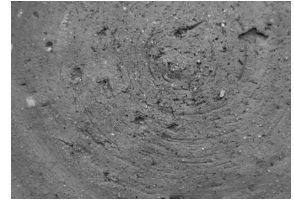
SI4 - 8 須恵器蓋外面墨書



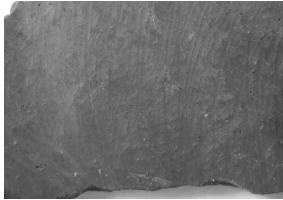
SI4 - 8 須恵器蓋内面朱の付着



SI4 - 12 墨書



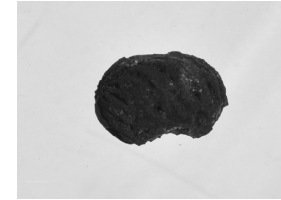
SI4 - 17 墨書



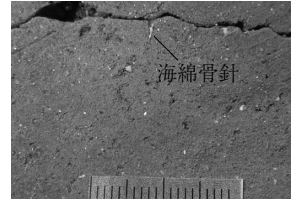
SI4 - 21 土師器蓋内面ミガキ



SI4 - 22 墨書



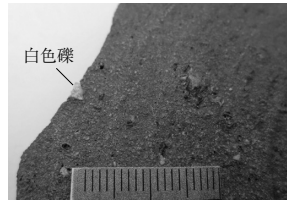
SI4 - 40 炭化種子



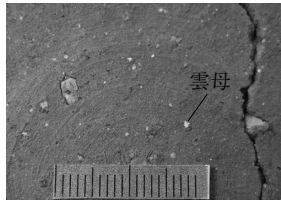
SI5 - 1 胎土 (スケール長 2cm)



|



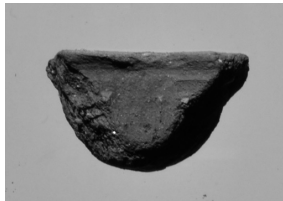
SI5 - 6 胎土



SI5 - 10 胎土



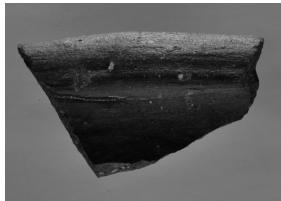
SI6 - 3 須恵器盤口縁部拡大



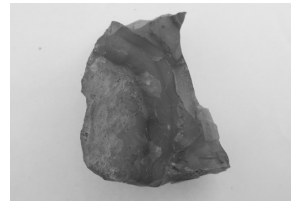
SK19 - 3 表裏



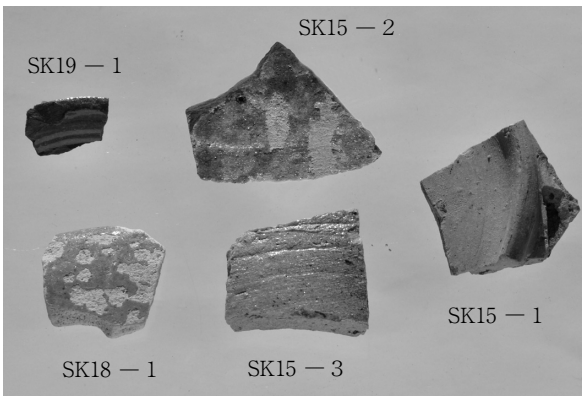
SK15 - 4 円面硯脚部



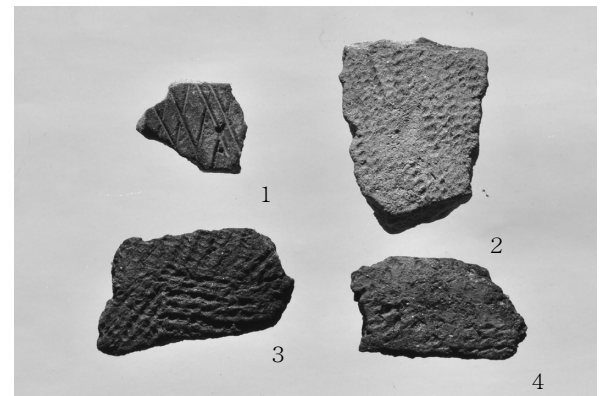
SK15 - 5 陶器



遺構外 - 7 瑪瑙



灰釉・緑釉陶器



弥生土器

報告書抄録

ふりがな	みやべいせき だいはちちてん							
書名	宮部遺跡 第8地点							
副書名	店舗建設に伴う発掘調査							
シリーズ名	石岡市埋蔵文化財調査報告書							
編集者名	賀来孝代、根本正子							
著者名	谷仲俊雄、土生朗治							
編集機関	(有)毛野考古学研究所 茨城支所							
所在地	茨城県常総市菅生町 2042 - 1							
発行年月日	平成 26 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みやべいせき 宮部遺跡	いしおかしわかまつ 石岡市若松 1 丁目 8115 - 1 番地外	08205	059	36° 11' 51"	140° 16' 01"	2013.12.9 ～ 2014.1.14	175㎡	店舗建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
宮部遺跡	集落跡	奈良平安	堅穴建物跡 3		土師器、須恵器、土製品、鉄製品、鉄滓		9世紀代を中心とする奈良・平安時代の集落跡で、瓦塔や緑釉陶器片が出土している。	
	その他		土坑 6		土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、土師質土器、陶磁器、瓦塔			
要約	<p>宮部遺跡第8地点の本調査区からは、堅穴建物跡3軒、土坑6基が確認されている。出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、鉄製品等で奈良・平安時代の時期のものを主体としている。中世以降の時期と見られる土坑からは、土師質土器や陶器片が少量出土している。その他に市内の遺跡からはまだ1例しか出土していない瓦塔片が土坑から出土している。</p> <p>宮部遺跡第8地点は、本調査区周辺の試掘トレンチからは堅穴建物跡や平安時代の遺物が出土しており、この地域は平安時代を中心とした時期の集落が広がっているものと見られる。</p>							

茨城県石岡市

宮部遺跡（第8地点）

—店舗建設に伴う発掘調査—

印刷 平成26年3月30日

発行 平成26年3月31日

編集 有限会社毛野考古学研究所
〒303 - 0044 茨城県常総市菅生町2042 - 1
TEL 0297 (27) 0722

発行 石岡市教育委員会
〒315 - 0195 茨城県石岡市柿岡5680 - 1
TEL 0299 (43) 1111

印刷 山三印刷株式会社
〒311 - 4153 茨城県水戸市河和田町4433 - 33
TEL 029 (252) 8481